



資料 令和3年度 松川高校の重点的教育活動の取り組み（4月～11月）

今年度の重点目標5項目（①～⑤）に関する今年度の具体的な取り組みを、各項目につき数点示しました。

学力の向上・授業の充実に関する重点目標（中長期的目標）：

自立的規範意識を身に付けさせ、確かな学力を養うとともに、豊かな心で総合的な生活力を持った生徒を育成する。

①生徒が個人として尊重される、安心・安全で活力ある学校生活を保障する に関わる取り組みとして

I：今年度は高体連・高野連・高文連所管の各種大会等が概ね実施され、運動部では陸上部が新人戦北信越大会に出場。野球部、弓道部、テニス部等も県大会に出場するなどの成果があがった。その他の運動部においても感染対策のもとに日常の練習に励み地区大会等に出場する中で着実に力をつけている。文化部では演劇部が今年も下伊那の大会で代表に選出され県大会に出場した。吹奏楽部、書道部、美術部なども「コロナ禍」の中での活動を工夫し、地道な活動を継続している。一方、地域と連携しながら東日本大震災被災地への支援などに取り組んできた生徒会及びボランティア部は今までと形を変えてそれぞれに活動を行った。特に生徒会では、松川町内の保育園に花を届ける活動を行うとともに、生徒自ら制定した「スマホルール」が松川町広報誌やNHKのエテレで取り上げられ大きな反響があった。また地域からの依頼を受け、松川町内の商店街活性化に向けた取り組みへの協力の検討を始めている。ボランティア部は、東北に花を送る活動と共に、毎月「満蒙開拓平和記念館」で高校生展示ガイドをしたり、松川町内で子ども食堂の活動支援を継続している。

II：災害やJR飯田線の運休等の緊急連絡を生徒・保護者へ届けるために「安否確認・連絡網システム オクレンジャー」を運用した。また、昨年度末より運用されている統合型校務支援システムにより、職員間の密な連携・確実かつ迅速な情報の共有化を図っている。

②基礎学力の定着と、探究的学力の伸長を図る授業づくりをすすめる に関わる取り組みとして

I：入学時より、英語ではマナトレを導入し、小中学校でつまづいた部分を「学び直し」することによって基礎学力の定着を図っている。また、「基礎力診断テスト」を実施することで、進学者の学力向上はもちろん、就職希望者にも基礎学力の重要性について意識を高めることができた。さらに、各教科でキャリア教育の視点を意識した授業改革に努めたり、総合的な探究の時間やロングホームルームを利用してよりよい進路実現に向けて学習や説明会等を行った。今後、1学年キャリアデイのまとめとして「総合的な探究の時間」でパワーポイントを使用した発表をおこなうことになっている。更に、就職・進学決定者に対し、卒業後の学力保障のための個別補習を実施している。コロナ禍で昨年度は様々な活動に支障が出たが、本年度は徐々に活動が従来に戻りつつある。

II：3年課題探究エリア「環境緑化」では、地元の農家の方の協力のもと、穀物（ジャガイモ、トウモロコシ、サツマイモ、落花生、そば）と野菜（トマト、ナス、カボチャ、ピーマン、大根、白菜、小松菜、オクラ、ほうれん草）を栽培・収穫し調理した。夏の天候不順により収穫できなかったものもあったが、作物を育てることの面白さや難しさを通して、食に対する意識を向上させられた。また、校門前の花壇作りを行い、学校の環境緑化に貢献することができた。1月には収穫したそばを使って“そば打ち”を行う予定。

III：3年課題探究エリア「食文化」では、調理実習実施にコロナ対応による制限の中で、実施方法を工夫して学習内容の充実を図っている。2年課題探究エリア必修「人文社会研究」では、まず松川町や長野県の歴史や自然、産業、文化を担当が講義し、その後はパソコンやタブレットを用い個人で課題を設定し、情報を収集・分析、まとめて発表をする探究学習を繰り返した。発信方法についてはパワーポイントを中心に用い、協働力や課題解決能力、表現力を養った。今後は47都道府県のうち1つを選び、その魅力と課題について情報を収集し、発表しようと考えている。同じく2年課題探究エリア必修「キャリア探究」では、「社会人基礎力」を涵養するためのビジネスマナー講習を実施した。さらに、最適な職業選択を実現するために有意義と思われる教材を利用し、生徒自らが「職業」に関する情報を蒐集できるような授業展開をこころがけた。飯田市産業振興課と連携し、地域企業との懇談会を企画し実施する予定である。

IV：電卓検定、簿記検定、ワープロ検定、情報処理検定、英語検定、漢字検定などの資格取得に多くの合格者を出すことができた。「食文化」では、家庭科食物調理技術検定4級を実施した。

V：9月に「匿名性を担保した授業中間評価アンケート（生徒・職員）」を実施。各授業の評価と生徒自身の授業に対する取り組みについて全校生徒対象に実施し、授業担当者は授業を振り返る機会とし、教科会等で授業改善について検討し、改善に努めるとともに、生徒も自分の授業への取り組みを見つめ直す機会としている。

③生徒の個性と能力を伸長させるキャリア教育と進路指導を組織的に実践する に関わる取り組みとして

I：各学年で進路ガイダンスを実施し、3学年は進路実現に向けた実践力を養成し、1・2学年は自らの進路を考える機会を提供した。

II：1学年は進路別に大学・専門学校あるいは地元企業を見学し、2学年は進路ガイダンスを行い、今後の進路選択・進路実現のための考察の機会を提供した。

III：学力向上に向けて、休業中や朝・放課後の補習授業や個別指導及び模擬試験を計画、実施した。

IV：各学年の進路ガイダンスにおいて、外部講師による生徒向け講習を実施し、将来の職業選択についての理解・関心を深めるとともに、職業観や人生設計を考察する機会を提供した。

V：3学年の進路指導に関しては、新型コロナウイルス禍のなか、ハローワークはじめ各種行政機関、各種進路指導外郭団体と連携し、生徒一人ひとりに対する細心かつ綿密な指導を展開してきた。

④生徒の主体的な活動を支え、自己肯定感を高め、生きる力を育む に関わる取り組みとして

I：生徒会では一昨年度作成した「松高スマホルール3か条」を引き継ぎ活動してきた。また、「スマホルール」の取り組みが松川町の広報誌に掲載された。全校ディスカッションについては、生徒にとって身近な「制服」や「スマホルール」をテーマに話し合った。「スマホルール」については、自分たちの現状や課題点、今後どうすれば生徒にとってよい学校となっていくか、といった話題について話し合い、生徒会活動を全校で考えるきっかけとなったと同時に、生徒の主体性を養うことができた。また、各委員会活動も、松川高生が自分たちでよりよい学校生活を送るために、自ら考え行動できるようにしていきたいと考えている。

Ⅱ：コロナの影響もあり、昨年度から活動を大幅に見直さざるを得なくなった。今年度は、①松川町役場に花を植える活動 ②松川町の保育園に花を届ける活動 ③松川高校に花を植える活動の3点。地域の多くの方のご協力をいただきながら、松川町内を中心に、花を通じて様々な方と交流することができた。来年度も引き続き、松川町を花で溢れさせるような活動を軸にし、主体的な活動にしたいと考えている。

Ⅲ：文化祭はJRの運休による休校をはさみ、予定を変更して7月1、2、6日に行った。感染症のリスクを考慮し、本年度も一般公開を中止にした。しかしながら、文化祭の発表をより多くの人に鑑賞してもらうために、文化祭の保護者に限って文化祭の発表時に校内への入場可の措置をとった。文化祭のイベントは主に体育館の中で実施したが、入退場時の手指消毒の徹底と定期的な換気、冷房完備の教室をリモート会場や休憩室として活用し、感染症・熱中症対策を講じた。準備から本番に至るまで、生徒達は様々な障壁に対してあらゆる手立てを考え、実行し、解決していくことで、休校などのアクシデントにめげずに無事やり遂げることができた。この課題解決の経験を通して「生きる力」を身につけることができたと考えている。

Ⅳ：1学期の「全校憲法学習」では、1、2年生は成人年齢が18歳に引き下げられたことによって変更される義務について学び、3年生は憲法に保障されている労働者の権利について学んだ。また、2学期の「人権学習」では、聴覚障がい者の表現手段として用いられる手話について実際に体験し、障がい者理解を深めた。「平和学習」では、コロナ禍を生きる私たちが求める平和とはどのようなものであるかを学ぶ予定である。

Ⅴ：「中学生の体験入学」(7/29木)では、生徒会役員が今年度からの全体会進行をはじめとして、例年のように準備・受付・案内を行うとともに、パワーポイントを使って学校生活の説明を行った。また、各エリア代表の3年生4名がエリアの説明と進路学習の体験談を発表。本校の魅力が伝わるよう生徒会が中心となり活躍する姿が見られた。参加した中学生や中学校の先生方からは、「学校生活の説明を生徒がわかりやすく説明してくれた。」とのアンケート回答が多数寄せられた。

Ⅵ：職員によるJR乗車指導・駅におけるマナー指導及び文化祭後夜祭後の下校指導を実施。

⑤地域に開かれた学校づくりを進め、地域社会に貢献できる生徒を育成する に関わる取り組みとして

Ⅰ：本校ホームページにおいて生徒の日々の活躍の姿を生きた情報として発信した。また、中学生向けに「活動インフォメーション」(フルーツバスケット)を年3回発行し、近隣の地域へも配布した。「学校要覧」の内容充実を図るなど開かれた学校づくりにつとめた。

Ⅱ：環境整備事業を6月26日(土)に保護者60人・生徒70人・教職員20人の参加で実施し、文化祭に向け学校を綺麗にすることができた。今年はコロナ禍で多くの事業を実施することができなかったが、保護者の方には多くの関心をよせていただいた。6月には4地区でPTAブロック別懇談会を開催した。

Ⅲ：

【生徒会】昨年度に引き続き、松川町の全保育園へ花を植えたプランターを届ける活動を行った。コロナ禍の中での活動であったため、直接保育園児との交流ができなかったことが残念であった。また、例年行っている松川町役場花壇の花植え作業は、雨による電車運休により町内在住の生徒会役員を中心に実施した。

【ボランティア部】10年目となる東北支援継続活動「花という笑顔を東北へ」は、松川町民の皆様の協力を得ながら今年度も実施し、東北各地へペチュニアなどの苗を送付した。また、町内の小中学校、役場、公民館、社協などで町民の方々と一緒に苗を植えることができた。

「満蒙開拓平和記念館」ではコロナ禍での制限を受けつつ、高校生展示ガイドの活動を継続した。こうした活動が地域の方々にも注目され、喬木中学校で中学生徒ともに学ぶ交流会を行うことができた。

その他の活動として、松川町内のりんご農家へのボランティアや「子ども食堂Hug」での学習支援やフードドライブボランティア、松川町社会協議会主催の地域支援活動「よこづな」への参加、令和3年8月大雨災害義援金の募金活動を行った。

【野球部】今年度も9月24日(金)松川町大島保育園の運動会前に、1・2年生男子部員が園庭整備に協力した。また、部員が自主的に計画し実施している始業前の学校周辺の「ゴミ拾い活動」が地域住民の目にとまり町の公民館から評価された。

【吹奏楽部】地元のラジオ番組のため演奏の録音を行っている。

Ⅳ：年度当初4月・6月・9月・12月に予定した「授業公開」が、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、4/21と12/2の2回の公開となった。そのうち12/2は、中学3年生とその保護者・中学校教職員対象の「進路相談会」として実施し、授業参観・入学者選抜の説明・部活動見学等で、志望校決定に際して本校をさらに知っていただく機会とした。

Ⅴ：県立高校全校で実施している「匿名性を担保した学校評価」では、生徒・保護者・学校評議員・職員を対象にアンケートを実施した。これらの結果を基に学校評価および次年度の学校目標の設定を行っていく。アンケートについては昨年度よりSNS(オクレンジャー)を利用し、スマートフォン等で回答できるようにし、多くの方々に答えていただけるように工夫している。